

競技要項については下記のとおりとする。また、準公式戦扱いとしペナルティー等については、審議対象試合とする。  
(内容的には平成22年度関東大学アイスホッケーリーグ戦競技要項と同じ。審議ガイドラインについては別途定める。)

## 記

### 1. 競技方法・競技時間

- ・正規20分×3ピリオド 練習10分 休憩12分
- ・ホームチームは、対戦表の左側のチームとし、ベンチは本部席に向かって右に入る。
- ・同点の場合は、引き分けとする。
- ・ランニングタイムは設定しない。

### 2. 競技規則

東京都アイスホッケー連盟の定めるローカルルールを除いては、原則として国際競技規則および(財)日本アイスホッケー連盟の定めるローカルルールによるものとする。

### 3. 補助規則(ローカルルール)

- 1) 連盟未登録選手が出場した場合は、その試合に限り没収試合とし、不戦敗(スコアは日ア連ローカルルールに基づく)とする。
- 2) オールメンバー表に記載されていない選手は試合に出場できない。
- 3) プレーヤーはバイザーまたはフルフェイスマスクを着用しなければならない。バイザーは鼻が全て覆われるものでなければならない。
- 4) プレーヤーはバイザーを着用している場合、その選手はマウスガードの着用を義務づけられるものとする。
- 5) マウスガードの色は本体全部が白・ベージュ・クリア(透明)などでなく、着用していることを安易に確認できる色のものを使用すること。
- 6) 危険な用具を着用している選手は試合に出場できない。  
選手の怪我防止の観点から、プレーヤーの用具が正しく着用されているかを確認するため、以下の手順を定める。
  - ①試合前の整列時にレフェリーが両チームのプレーヤーの用具着用状態を確認する。
  - ②プレーヤーは、全ての用具を正しく着用した状態で、ブルーライン上に待機する。
  - ③正しく着用されていないプレーヤーには、直ちに改善することを指示するものとする。
  - ④試合が開始された後、用具を正しく着用されていないプレーヤーをレフェリーが発見した場合は、警告なしでそのプレーヤーに対しミスコンダクト・ペナルティーを科す。なお、これはレフェリーの判断によりペナルティを科すものであり、チームからのアピールプレーは一切受け付けられないものとする。
- 7) 練習中については、スーパーバイザーがヘルメットやストッキング等の防具を正しく着用するよう監督し、是正させる。
- 8) 試合の際に役員(監督、コーチ等)のうち1名は必ずベンチ入りすること。不在の場合は試合放棄とみなし、不戦敗(スコアは0対15)とする。
- 9) ベンチには、GK 2名・プレーヤー20名の計22名、役員6名までが入れる。なお、外国籍を有する選手は3名以内とする。
- 10) タイムアウトは、各チーム1回使用できるものとする。
- 11) オールメンバー表には、GK 1名を必ず記載すること。また、オールメンバー表は試合開始45分前までに必ず提出すること。
- 12) 試合当日(試合開始時)試合を遂行するのに必要な最低人数(GK 1名以上を含む選手8名)に満たないメンバーしか集まらないチームにはその試合を棄権したものとみなし、不戦敗(スコア0対15)とする。
- 13) スティックおよび用具の計測は、1試合につき各チームそれぞれ1回ずつ行えるものとする。
- 14) ピリオド終了時、両チームが同一通路を使用してリンクより控え室に戻る場合、原則としてホームチームから先に速やかに退場する。但し、リンクの構造上無理が生じる場合には、様々なケースを認める。その際、両チームが同時にならないよう、必ず一方のチームから退場すること。  
なお、後のチーム(氷上にいるプレーヤー・GK 含む)は、一度自チームベンチに戻り、レフェリーの指示により退場することとする。  
先のチームが故意に退場を遅らせたり、後のチームが故意に自チームのベンチに戻らなかった場合は、レフェリーの判断により違反したチームに対しベンチ・マイナーペナルティを科すものとする。
- 15) ベンチ入りする学生チームスタッフ(マネージャー・トレーナー)は危険防止のため必ずフルフェイス・マスクの付いたヘルメットの着用を義務付けるものとする。レフェリーは、規定に違反している学生を発見した場合、チームスタッフに対し該当者をベンチから退出させるように注意し、正しい装備をしてからベンチ入りを認めるものとする。この場合、ペナルティ(ベンチマイナー)は科せられない。

以上